

Ⅱ 関西支所における研究課題の取り組み

関西支所における研究課題の取り組み

1. 森林総合研究所の研究推進方向

国立研究開発法人森林総合研究所は、森林・林業・木材産業に係わる中核的な研究機関として、科学的知識の集積を図りながら、行政や社会的なニーズに応えるために分野横断的・総合的研究をいっそう推進することとなっています。そのため第3期中期計画（平成23～27年度）を策定し、以下のような重点課題を設定して研究を推進しました。

- 重点課題A 地域に対応した多様な森林管理技術の開発
- 重点課題B 国産材の安定供給のための新たな素材生産技術及び林業経営システムの開発
- 重点課題C 木材の需要拡大に向けた利用促進に係る技術の開発
- 重点課題D 新規需要の獲得に向けた木質バイオマスの総合利用技術の開発
- 重点課題E 森林への温暖化影響評価の高度化と適応及び緩和技術の開発
- 重点課題F 気候変動に対応した水資源保全と山地災害防止技術の開発
- 重点課題G 森林の生物多様性の保全と評価・管理・利用技術の開発
- 重点課題H 高速育種等による林木の新品種の開発
- 重点課題I 森林遺伝資源を活用した生物機能の解明と利用技術の開発

重点課題Fには、平成23年3月に発生した東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故への対応として、森林内における放射性物質の分布と挙動、除染、海岸防災林に関する研究も含まれています。

2. 関西支所の担当する研究課題

関西支所では林業現場や自然フィールドに密着した研究課題を中心に、51課題と3つの基盤事業を行っています（うち4課題は関西支所職員ではなく、科学技術振興機構の特別研究員が担当。P7～の課題一覧表参照）。

個々の研究課題の予算規模や担当者数、投入勢力は様々で、また関西支所の研究員が課題責任者を務める場合もあれば、本所や大学など外部組織が主査の課題を分担している場合もあります。51課題の予算区分別の内訳は、交付金一般研究費が14課題、交付金プロ（森林総研の所内プロジェクト）が2課題で、残り35課題が外部資金です。外部資金の中では、科学研究費助成事業が20課題と多く、そのほか農林水産省、環境省、民間財団の研究助成金などを獲得しています。

なお、木材や林木育種に関する研究は、関西支所では実施していません。

関西支所で主査を担当しているか、または多くの勢力を投じ重点的に行っている研究課題としては、以下が挙げられます。

- A122 優良壮齢人工林へ誘導するための施業要件の解明と立地・社会環境要因の評価（P19参照）
- A1P06 コンテナ苗を活用した低コスト再造林技術の実証研究（P17参照）
- G211 里山地域における森林の総合管理のための機能評価（P28参照）

そのほか関西支所が比較的大きな部分を担当する研究分野としては、以下が挙げられます（括弧内は研究課題群の番号）。

- ・森林の機能評価のための森林資源情報の活用に関する研究（A2）
- ・炭素動態観測手法や温暖化適応と緩和技術に関する研究（E1）
- ・環境変動・施業等が水資源・水質に与える影響評価技術に関する研究（F1）
- ・森林の山地災害防止機能強化技術に関する研究（F2）
- ・生物害による森林被害軽減・制御技術に関する研究（G1）